

# 「大学のまち京都」のさらなる発展を目指して

私立大学等改革総合支援事業タイプ5（選定：平成29年度）

大学コンソーシアム京都



## 龍谷大学

### 取組のポイントや補助効果

- ◆ 京都の特色を生かした先進的な取り組みによる、ブランド力の向上
- ◆ 取り組みを自治体・経済団体と進めたことによる連携の深化

### 【龍谷大学】

西本願寺内に設けられた「学寮」を出発点とする日本屈指の歴史を誇る大学である。学生一人ひとりが無限の可能性を追求し、自らの未来を切り拓いて欲しいという意味である「You, Unlimited」をブランドスローガンとし、建学の精神「浄土真宗の精神」に基づいた「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成している。

### 【公益財団法人大学コンソーシアム京都】

1994年3月に前身の「京都・大学センター」を設立し、1998年3月に財団法人設立の許可を受け「財団法人大学コンソーシアム京都」に名称変更した。2010年7月、公益財団法人（以下、「財団」）に移行し、現在に至る。現在、国公立の48大学・短期大学と自治体（京都府・京都市）及び経済団体（京都経営者協会、（一社）京都経済同友会、（公社）京都工業会、京都商工会議所）が加盟する全国の大学連携組織の先駆けとなった日本最大規模の大学コンソーシアム組織である。

### 取組に至る背景や問題意識

第二次ベビーブームにより18歳人口が増加した1980年代後半、教育内容や学生生活の資質を維持・向上させるため、大手の私大は校

地や校舎拡張等の新たな展開の必要に迫られていた。そのような状況の中、京都市内は工場等制限法や高さ制限等によりキャンパス拡張に制限があり、京都市外にキャンパスを求め一部の私大が流出した。1986年の同志社大学の京都府南部への一部移転を皮切りに、龍谷大学や立命館大学が滋賀県に新キャンパスを設置する等の動きに、京都市は大きな危機感を抱いていた。

こうした動きの中で、京都市は大学振興を市政の重要な柱の一つと位置付け、大学と地域の総合的な発展を図るため、1993年に「大学のまち・京都21プラン」を策定し、このプランに基づき、翌年に財団の前身となる「京都・大学センター」が設立された。

財団では、1994年から5年ごとのステージ



財団事務局のあるキャンパスプラザ京都（外観）

プラン（中期計画）を策定し、さまざまな事業に取り組んでいる。

2018年が最終年度となる第4ステージでは、「京都地域における学生の『学びと成長』の支援」を充実させるため、「大学間連携による教育プログラムの充実」、「大学の発展を支える教職員の育成」、「大学のまち京都・学生のまち京都活性化」、「国際交流プログラムの充実」、「調査・研究機能の再構築」を計画の柱として推進してきた。

今回の私立大学等改革総合支援事業タイプ5の申請に当たっては、この四半世紀、先進的に行われてきた大学と地域との連携の取り組みに設立初期から関わってきた龍谷大学が取りまとめを担当した。

## 取組の目標・目的

財団の目的は、「加盟校の教育・研究水準の向上とその成果の地域社会への還元」と「京都地域を中心とした高等教育の発展と人材育成」の大きく二つである。

国公立の区別なく、それぞれの加盟校が個性や特色を生かして学生の「学びと成長」を支援し、京都が人材供給、発信、国際交流の一大拠点であり続けることを目標としている。すべての加盟校が同じ方向を目指すことは困難を伴うが、京都地域を「大学のまち・学生のまち」として発展させたいという点では、大学間連携を否という加盟校はない。

そして、京都府と京都市及び経済団体ともさまざまな取り組みを通して連携し、京都地域の活性化を推進している。

## 取組内容

加盟校は、収容定員3万人を超える規模から100人程の規模まであり、それぞれの個性や特色を生かしながら連携している。

以下、財団が取り組んでいる各種事業のう

ち基幹事業を中心に紹介する。

### ≡ 単位互換事業

「京都・大学センター」の発足当初の1994年から取り組んでいる事業である。学生が自転車等で移動できる近い距離に、総合大学の他にも芸術系や宗教系大学など種々の大学があることで、学生の興味・関心に応じて利用しやすい環境が整っている。

第4ステージプランでは、量から質への転換を進め、「生活・健康・スポーツ」、「国際関係（グローバル）」等の新たな分野の科目群を設置するなど、より質の高い多様な単位互換科目の選択を可能とした。2015年度に開設した「京都世界遺産PBL科目」は、世界遺産（上賀茂神社、醍醐寺、清水寺、延暦寺、二条城、仁和寺）を学びのフィールドとした、京都ならではの特色ある科目で人気が高い。

各大学において、カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーの公表に併せた単位の実質化や教育の質保証が求められたことや、CAP制導入等による単位互換科目の履修制限などの動きに伴って、延べ1万名のピーク時から減少しているものの、2017年度は延べ2,400名の学生が受講している。

### ≡ 生涯学習 京（みやこ）カレッジ事業

京都市と連携して、社会人の学習ニーズの高度化に応える生涯学習事業として、加盟校の特色ある授業科目や公開講座を提供している。「大学講義：大学の正規科目で単位修得が可能な講座」、「市民教養講座：歴史や文化、芸術、健康、社会問題等幅広く学べる講座」、「京都力養成コース：フィールドワークを交え、京都をより深く学べる講座」があり、出願者のうち約75%が60歳以上のシニア層で占められている。とりわけ、2001年度から開講する京都学研究の成果として公開する「京都学講座」と、2016年度に開設した加盟校の特色を生かした独自講座「大学リレー講座」（受

講料無料)は、人気の高い講座となっている。

### ≡ インターンシップ事業

---

1998年度から全国に先駆けて行われている。就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置付けた教育プログラムとして、学生や受け入れ先企業・団体等に認識されている。現在、10日間以上の実習を伴う「ビジネス・パブリックコース」と、課題解決型で実習期間が約5か月間の「プログレスコース」の2コースを展開している。2017年度は、約380名が165の受け入れ先企業・団体等で実習した。

### ≡ 高大連携事業

---

京都府と京都市の各教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、京都商工会議所と財団が連携し、2003年に設立した「京都高大連携研究協議会」では、京都ならではの「面と面の連携」による人材育成を目指して高大連携の推進のためにさまざま取り組んでいる。

「高大連携教育フォーラム」は、基調講演、事例紹介、ディスカッション、分科会の構成で実施している。高校・大学間の連携・接続教育問題における「国内動向の情報共有と京都における取り組みの情報発信」を目的に、関心の高いテーマのもと開催している。

「高大社連携フューチャーセッション」は、高校生と大学生が社会人(ロールモデル)との交流を通してキャリア発達を促すキャリア教育企画である。参加する高校生と大学生自身が将来について考え、自身のキャリアと高校や大学で学ぶことの大切さへの気づきを促すことを目的に実施している。

### ≡ FD・SD事業

---

1995年から継続実施しているFDフォーラムでは、FD分野で関心の高まっているテーマを取り上げ、基調講演、分科会や意見交換等を通じた情報交流の場となっている。2019

年度25回目を迎えるこの事業は、全国的にも認知度が高く、加盟校だけでなく全国から毎年800名を超える参加がある。

SD事業は、2017年の義務化以前の2001年に実施した職員共同研修事業に始まる。加盟校の職員を対象に能力開発・スキル向上を目的とした大学職員共同研修プログラムやSDゼミナール等を開催している。また、SDフォーラムでは、高等教育の最新動向等を踏まえ、外部有識者の基調講演や先進事例を紹介する分科会を通して、SDに関する情報交流の場として機能している。

### ≡ 京都学生祭典

---

2003年に始まった京都学生祭典は、学生が主体となり、産官学と地域が連携して作り上げる毎年10万人以上が来場する大規模なイベントである。加盟校の学生約250名の実行委員が中心となり企画運営し、この活動を京都府、京都市、京都商工会議所、(一社)京都経済同友会と財団で構成する組織委員会が支援している。

個別大学の学園祭とは異なり関わる人数や運営費が桁違いの規模であることから、実行委員の学生にとっての「学びの場」にもなっている。

### ≡ 国際連携事業

---

加速するグローバル化を背景に、2015年度に財団内に国際事業部を設置した。大学、専門学校、日本語学校等による産官学の「オール京都」による留学生誘致・支援組織「留学生スタディ京都ネットワーク」の創設をはじめ、留学生受け入れ体制の強化、留学生と日本人相互交流の促進を図っている。また、海外向け情報発信の強化として7言語による留学WEBサイトによる留学生誘致の他、留学生の就職支援・交流コミュニティ「京トゥモローアカデミー」を運営し、京都での就職や京都への定着を促進している。

## 実施体制

京都市が「大学のまち京都」のシンボル施設として2000年に設置した京都駅前のキャンパスプラザ京都（正式名称「京都市大学のまち交流センター」）には、加盟校と自治体からの出向者を含めた48名の職員が業務にあたっている。

約1年半の期間をかけて5年間で行うステージプランを策定し、各年度に行うアクションプランを掲げるとともに進捗状況をチェックし、PDCAサイクルを回している。また、3年目の年には中間評価を行っている。

## 取組後の変化

「大学のまち京都」のブランドイメージが確立し、財団は全国の大学コンソーシアムをリードする組織として、他の地域から一目置かれている。また、京都市による柔軟な対応もあり、2005年以降京都市内に大学のキャンパス回帰が見られるとともに、新たにキャンパスを設置する大学も出てきている。

## 成功のポイントや苦労した点

成功のポイントは、「大学のまち京都」というフレーズを加盟校が共有し、京都でないと体験できない魅力を作り上げたところにある。京都市は、人口の1割に相当する約15万

人の学生が学ぶ「大学のまち・学生のまち」であり、自治体や経済団体と一体になって取り組みを進めていることも大きい。

一方、設立当初は、私立大学と国公立大学の背景が異なっていたため、私学が主導となり活動をしていた経緯があることから、国立大学等が参加し「オール京都」となるまでには少し時間がかかったのも事実である。

## 今後の課題・展望

2019年度から第5ステージプランによる新たな5か年計画が始まる。施策の展開に当たり五つの事業推進方針として、「加盟校ニーズ・期待に応える事業運営」、「大学と地域との連携推進」、「交流・プラットフォーム機能の強化」、「『大学のまち京都』のブランド力向上」、「高等教育を取り巻く環境の変化に対応する、先進的で独自性のある事業展開」を掲げている。

第5ステージプランを検討するうえで、加盟校からのニーズは、アンケートやヒアリングによる調査を通して受け取っている。また、情報収集・発信や大学と地域との連携事業、高等教育の動向調査にも力を入れていく方針を示している。

今後もより一層加盟校間の連携を強化し、京都地域のすべての加盟校が個性と特色を生かしながら発展していくため、引き続きさまざまな事業展開が計画されている。

### 加盟校〔大学・短期大学〕・加盟団体一覧

|           |   |   |   |  |
|-----------|---|---|---|--|
| 国立大学 (3)  | 京都大学  | 京都教育大学  | 京都工芸繊維大学  |  |
| 公立大学 (4)  | 京都市立芸術大学  | 京都府立大学  | 京都府立医科大学  | 福知山公立大学  |
| 私立大学 (41) | 池坊短期大学<br>京都外国語大学<br>華頂短期大学<br>京都光華女子大学短期大学部<br>京都西山短期大学<br>京都美術工芸大学<br>嵯峨美術大学<br>同志社大学<br>平安女学院大学<br>龍谷大学<br>放送大学・京都学習センター | 大谷大学<br>京都外国語短期大学<br>京都看護大学<br>京都産業大学<br>京都造形芸術大学<br>京都文教大学<br>嵯峨美術短期大学<br>同志社女子大学<br>平安女学院大学短期大学部<br>龍谷大学短期大学部 | 大谷大学短期大学部<br>京都学園大学<br>京都経済短期大学<br>京都女子大学<br>京都橘大学<br>京都文教短期大学<br>種智院大学<br>花園大学<br>明治国際医療大学<br>大阪医科大学 | 京都医療科学大学<br>京都華頂大学<br>京都光華女子大学<br>京都精華大学<br>京都ノートルダム女子大学<br>京都薬科大学<br>成安造形大学<br>佛教大学<br>立命館大学<br>京都情報大学院大学 |
| 地方自治体 (2) | 京都市府  | 京都市   |   |  |
| 経済団体 (4)  | 京都経営者協会   | 一般社団法人 京都経済同友会  | 公益社団法人 京都工業会  | 京都商工会議所  |

( ) 内の数字は、大学・短期大学や団体の数を示す。